

長月俳句・短歌集

みなみうわ俳句会

川曲がりトロッコ列車に青葉風
登場のイケメン案山子青田風
睡蓮の白に憩うや糸蜻蛉
鮎を食む一氣に夏の来たりけり
太公望竿を持つ腕蚊にさされ
家内中一つの蚊帳に入りし頃
花合歡を曲がり曲がりて山の寺
万緑の山を結びて沈下橋
お気に入りガラスの器夏の朝

田口ひさ子
小島 泰子
若林八重子
濱 初榮
長尾 則夫
宮下 峰月
木村 智子
中川千代子
矢鋪 都

御莊俳句会

爽やかや石に座れば石の声
白亜なる家のつづきて秋晴るる
夏帯をきりゝと締めて茶道口
湯上りの縁に風呼ぶ麦茶かな
ずつしりと五体の沈む西瓜かな
遠近に牛放たれて鬮雲

加洲勢津子
山本 金子
尾崎 松恵
若林八重子

檳榔子

棒つきのアイスクャンデー五円の頃

若林八重子

はじめまして。赤ちゃん。

7月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

7月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

西海俳句会

氷囊のゴムへばりつくほてり顔
梔子のそこはかとなき暮色して
短冊にあどけなき願ひ星まつり
夏の朝どこへ旅する飛行雲
高原の朝夏鶯の序奏より
天といふ高きどこまで夏つばめ
葉を締め酷暑に耐えし土手の草
初盆の数を指折る過疎の村

若山 節子
吉田モミエ
山口 薫
吉田 朝子
小島 泰子
三好ミキエ
山口 和子
濱野 康子

新くさの葉短歌会(はこべ)

深々と里山蜻蜒現るる
菩提寺へ供える盆の大楮
弱りたる手の運動と閑あれば古きタオルを雑巾にさす
還り来まさぬ兄おもいつつ浄水そそぐ「アツツ桜」と売られるし花
亡き夫に下りし眉毛のそっくりと言われる曾孫に親しみの増す
久しぶりに帰りし義妹は何やかや世話して帰りに長生きしてねと
人まばら崩れし塀も風情あり夫とまた来む杵築の街並
立ち寄りし閉店前の道の駅に残れる鬼灯ためらはず買ふ

吉田 久江
利根早智江
吉田 朝子
吉田 笑代
吉田 弘定

倉田美津枝
斉藤トミ子
市川コマエ
長田ハル子
西崎 文恵
前田 充

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。